

労災疾病臨床研究事業費補助金

職場におけるメンタルヘルス不調者の事例性に着目した支援方策に関する研究

研究結果の概要（平成 27 年度～29 年度の全期間分）

研究代表者

廣尚典（産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学・教授）

研究分担者

神山昭男（医療法人社団桜メデイスン・理事長）

桂川修一（東邦大学医学部精神神経医学講座（佐倉）・教授）

田中克俊（北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学・教授）

長見まき子（関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科・教授）

永田昌子（産業医科大学産業生態科学研究所産業保健経営学・助教）

研究目的

近年、メンタルヘルス不調を有する労働者が増加、多様化しており、産業保健スタッフをはじめとする職場関係者は、そうした状況への対処に多くの時間を費やしている。

本研究は、メンタルヘルス不調例に対し、産業保健スタッフが事例性に着目した適切な対応を行うための方法論を開発することを目的とした。以前から、職場関係者は確定診断名や治療法にとらわれすぎずに、それらは精神医療にゆだねた上で、事例性を重視した取り組みを行うべきであるという指摘があり、本研究はその視点から職場での具体的な対応（支援）法を検討したものである。

研究方法の概要

6 名の研究者（研究代表者、研究分担者）によって、以下の 7 つの枠組みを持った研究を実施した。（年度によって、一部研究のタイトル名が異なっているものがある。）

- ①職場におけるメンタルヘルス不調者の対応ガイドラインの開発に関する研究
- ②メンタルヘルス不調者の事例性と疾病性の形成過程と相互関連性に関する分析的研究
- ③主治医の立場からみたメンタルヘルス不調者の転帰に関連する要因と対応の調査研究
- ④職場において対応に苦慮するメンタルヘルス不調者の事例性パターン別対応マニュアル作成の試み
- ⑤事例性に着目した適切な支援のためのツールの検討
- ⑥職域における簡易型認知行動療法を用いた教育プログラムについての検討
- ⑦職場におけるメンタルヘルス不調者の対応ヒント集の開発に関する研究

なお、⑦は、①～⑥の成果の統合を図ったものである。

これらの研究は、文献調査、Web 調査（産業保健を主な業務とする医師を対象）、質問紙調査（産業保健を主な業務とする医師を対象）、事例収集とその詳細分析、診療記録調査、

支援活動記録調査、グループ討議などによる聞き取り調査（産業保健を主な業務とする医師、産業保健活動に関わった経験を有する精神科医、医療機関の精神医療関係者などを対象）などの方法を用いた。

研究成果

主な成果物として、多くの産業保健現場で活用できる「職場におけるメンタルヘルス不調例の対応ヒント集（統合版）」を開発した。本統合版は、本体および「職場において対応に苦慮するメンタルヘルス不調者への事例性パターン別対応ヒント集」、「職場における困りごと情報整理シート」、「上司からの情報提供シート」からなる。

「職場におけるメンタルヘルス不調例の対応ヒント集（統合版）」は、「1. はじめに」、「2. 対応の前提条件」、「3. 主治医との連携」、「4. 事例の表面化のパターン」、「5. 多くの事例に共通して効果的な対応」、「6. 診断が確定している例への対応」、「7. 診断が確定しない例への対応」、「8. 各種属性を考慮した留意点」、「9. その他の留意点」で構成した。

「1. はじめに」では、本ヒント集の位置づけを、「労働者の心の健康の保持増進のための指針」および「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」を補完するものと明示した。「2. 対応の前提条件」では、教育研修、人事労務管理部門—ライン—産業保健スタッフの連携体制の強化、個人情報保護の徹底を強調した。「3. 主治医との連携」では、当該労働者の了解のもとに進めることを大原則として、主治医と職場との双方向性の情報交換の内容を、書面、直接面接の2つに分けて整理している。「4. 事例の表面化のパターン」では、職場で多く見られる4つの事例化パターンを紹介している。「5. 多くの事例に共通して効果的な対応」では、様々な病状に適用できる有益な対応をまとめ、「6. 診断が確定している例への対応」では、うつ病、統合失調症、双極性障害、適応障害、発達障害、アルコール使用障害において特に有用な対応を整理した。「7. 診断が確定しない例への対応」では、過去に開発された「対応類型表」をその使用方法と併せて紹介している。「8. 各種属性を考慮した留意点」では、年齢層、家族の同居、職歴（転職）、職種、職位に着目した留意点をあげ、「9. その他の留意点」では、適正な対応法は変化していく可能性がある点をはじめ、10の留意点を補遺の形で述べた。

今後の展望

本研究で得られた「職場におけるメンタルヘルス不調者の対応ヒント集（統合版）」などの成果を、学術雑誌、学術会議、産業保健に関する研修会などを通じて、多くの産業保健スタッフに提供し、産業現場での活用を促す。また、その結果に関する情報を収集し、必要に応じて、成果物の改訂を試みる。